



日本防災士会広島県支部会報



第5号 平成21年1月27日

日本防災士会広島県支部活動報告

【活動報告】

報告1:日本地震工学会主催「地震防災の学習教材の展示会と実演」

日時:12月13日(土)、14日(日)、15日(月)の3日間

場所:三原駅前リージョンプラザ2階

参加者:桑木副支部長(三原地震防災リサーチネット代表)・楠田

今回の企画は、日本地震工学会・土木学会中国支部・地震工学会中国支部・三原防災ネットワーク・応用地震計測・学習研究社が連携を図った全国で初めての取り組みで、今後は全国・県内でも巡回をする予定とのこと。

桑木副支部長は来場者に対して、教材の利用方法について詳しく説明されていました。



桑木副支部長(前列右から2番目)とスタッフ



木造家屋の倒壊実験



地震防災の学習教材の展示





高層ビルの揺れ実験（手回しぶるる）

防災ゲームを体験する来場者

学研の「じしんがきても まけないよ」(学研)は、

http://www.hoikucan.jp/m3_books/book11.html

防災教育をおこなうのにわかりやすいお奨めの紙芝居です。

また、日本女子大学住居学科石川孝重研究室のHPには、防災教育に関する資料がダウンロードできます。今後の活動で参考になるサイトです。参考にしてください。

http://momi.jwu.ac.jp/jyu-ishi/isikawa/kagutentou/kagu_top.htm

主催：日本地震工学会

共催：土木学会中国支部・地震工学会中国支部・三原市防災ネットワーク

協力：応用地震計測・学習研究社

報告2：「被災地交流集会・復興デザイン研究会」

日時：1月11日（日）

場所：関西学院大学B号館

参加者：楠田

阪神・淡路大震災から十四年を受けて、地震や火山噴火など全国の被災者が話し合う「被災地交流集会」が西宮市の関西学院大で開催され、被災者やボランティア、学識経験者ら約85名が参加して、各地の現状や取り組みの報告が行われた。災害復興の課題討議 宮城、石川などの被災者ら報告(神戸新聞11日朝刊)



全国の被災地の現状や課題を話し合う参加者ら = 西宮市上ヶ原一番町

阪神・淡路大震災から十四年前に、地震や火山噴火など全国の被災者が話し合う「被災地交流集会」が十一日、西宮市の関西学院大であった。被災者やボランティア、学識経験者ら約八十五人が参加し、各地の現状や取り組みを報告した。

同大災害復興制度研究所が開くフォーラムの一環。各地の被災者らの経験を蓄積し、制度や政策の新設、改善につなげる目的で、二〇〇五年から毎年開いている。

昨年六月の岩手・宮城内陸地震で被災した宮城県栗原市の支援に取り組む特定非営利活動法人(NPO法人)レスキューストックヤードの栗田暢之代表理事(44)は「山間部では避難指示が解除されず、イワナの養殖やハウスイチゴの栽培ができない人がいる。合併で市域が広がり、被災者の苦しみが行政に届いていないと感じる」と報告。

〇七年三月の能登半島地震以降、仮設住宅で生活を続ける石川県輪島市の藤本幸雄さん(54)は「行政は風評被害を嫌がるが、復旧は終わっても復興はまだ。もっと生活者の声を聞いてほしい」と訴えた。

同研究所の室崎益輝所長は「既存の制度を弾力的に活用する一方、問題点を指摘し、改善する必要がある。行政が被災者の立場で考えることが重要だ」と話した。(岡西篤志)

(1/12 09:28)

報告3:日本災害復興学会総会

2009年関西学院大学災害復興制度研究所フォーラム(西宮市)

テーマ「どう果たすか国際支援 - 国家・社会・文化の壁超えて - 」

日時:1月12日(祝)10時半~16時半

場所:関西学院会館

午前の総会では、被災地で継続的に復興を支援する委員会を立ち上げ、被災地のニーズに応じた助言ができるよう学者や弁護士、公務員、市民団体などから成る会員の人材バンクを構築した。



兵庫県知事あいさつ



フォーラムのパネリスト

岩手・宮城内陸地震、阪神淡路大震災、新潟県中越地震、三宅島噴火などで被災したり、現地で支援した経験のある5名が委員となり、被災者生活再建支援法の内容などをわかりやすくまとめた被災者向けのパンフレットを作成すること等が確認された。

午後の「2009年関西学院大学災害復興制度研究所フォーラム」では、井戸敏三兵庫県知事のあいさつに続いて、姜 尚中 東京大学院教授による「海外支援～日本の役割」と題した特別講演があった。

シンポジウムでは、「どう果たすか国際支援 - 国家・社会・文化の壁を超えて -」をテーマに海外の復興支援を行っている4名のパネリストをまねき、室崎関西大学総合政策学部教授がコーディネーターとなって、地球規模の巨大災害に立ち向かうには、国境を越えた支援のネットワークづくりが急務であり、国家体制、宗教・文化、社会習慣などの違いを乗り越えて、どう連携をしていくのかについて、CODE 海外災害援助市民センターのスタッフとしての経験談や、四川地震の復興計画に日本から応募した話などを交えて、日本発の国際貢献について貴重な支援活動について詳しく聞くことが出来た。

復興の過程には、災害の教訓を踏まえて減災を加味した「まちづくり」や、「自立支援」が重要であるとのコメントが印象的だった。

詳細な内容は、日本災害復興学会 HP に掲示されている「日本災害復興学会総会についての報道など」を参照してください。 <http://f-gakkai.net/>

【今後の予定】

1月 31日	土 曜	自主防災 組織リーダ ー育成研 修会	13 時 30 分	16時 30分	世羅町甲 山保健福 祉センター	内容:災害対応に関する講義, 図 上訓練等;定員:50人程度(受講 料無料);申込期限:1月23日(金 曜)	危機 管理 監消 防保 安課	082-513-2790
2月 25日	水 曜	自主防災 組織リーダ ー育成研 修会	13 時 30 分	16時 30分	クリスタル アージョ	内容:災害対応に関する講義, 図 上訓練等;定員:50人程度(受講 料無料);申込期限:2月18日(水 曜)	危機 管理 監消 防保 安課	082-513-2790

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/page/1168838322230/index.html>

参加希望の方は、次の連絡先までご連絡ください。

〒730-8511 広島市中区基町 10-52

広島県 危機管理監 消防保安課 危険物・予防グループ

主任主査 万力 悟

TEL:082-513-2790 , FAX : 082-227-2122

e-mail:s-manriki83995@pref.hiroshima.lg.jp